

ホットな福祉情報誌

はあとふる ふくしま

2023

2月

No.314



2022年度シリーズ
ふくしまのみらい

- ちいさな足で一步ずつ、
- なにが見えるかな？
- どこへ行こうかな？
- (鏡石保育所・鏡石町)



特集
SNS×社会福祉施設
リアルな魅力を伝える一步

～つながる広がるSNSの可能性～



シリーズ[未来へつなごう“ふくしま”から]
連綿と続く児童福祉の歴史に思いを寄せて
～社会福祉法人福島愛育園～



「はあとふるふくしま」は作成経費の一部に、共同募金配分金及び特別賛助会員の寄付金を使用しています。

目の不自由な方のために「はあとふるふくしま」は音訳版および点訳版を作成しています。



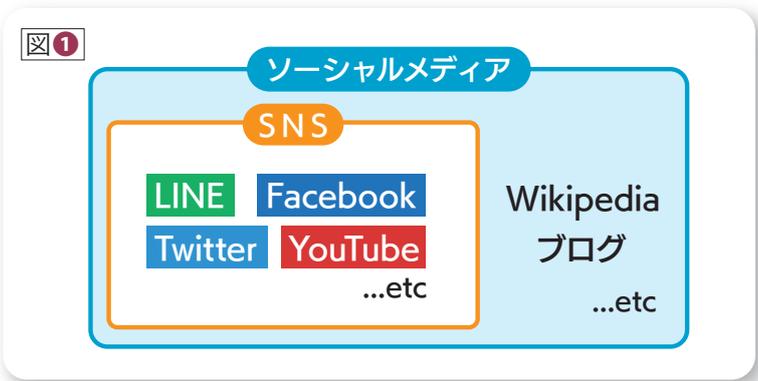
SNS×社会福祉施設 リアルな魅力を伝える一歩

つながる広がるSNSの可能性

ソーシャルメディアの普及が進み、なかでも SNS がもたらす新たな可能性に関心が集まっています。社会福祉施設においても SNS を活用して、福祉の仕事に対する「分からない・イメージできない」を払拭し、福祉の仕事の楽しさや魅力を伝えることで、地域とのコミュニケーションを深めていくことができるのではないのでしょうか？ 今月号では、SNS の基本的な理解と留意点、さらには県内の社会福祉施設の活用事例を紹介します。

ソーシャルメディアとSNS 違いとその仕組み

ソーシャルメディアとは、インターネットを利用して誰でも手軽に情報を発信し、相互のやりとりができる情報交流サービスの総称です。ソーシャルメディアの代表的なものに、ブログ、Wikipedia、Facebook や Twitter などの SNS、YouTube などの動画共有サイト、LINE などのメッセージングアプリがあります (図①)。



図② SNSの特徴と使い方 資料提供：株式会社ハタフル「SNSの特徴と使い方」より

用途	媒体	特色
告知向き	Facebook	・画像+テキスト ・実名登録制なので情報信頼度が高いメディア ・情報量が多くても受け止められる
	Twitter	・画像+テキスト ・拡散力が高い、リアルタイム性が高い ・情報量が多いコミュニケーションには不向き
	YouTube	・動画 ・長い動画、ノウハウ動画なども多い
気軽な投稿・コミュニケーション	Instagram	・画像+テキスト、動画、LIVE配信 ・画像主体で、職場や人の雰囲気伝えやすい ・動画(ストーリーズ、リール)で気軽な投稿も可能
	TikTok	・動画+音楽、LIVE配信 ・短くて気軽に見られるものを中心 ・日常的な職場環境の投稿向き
双方向けコミュニケーション	LINE	・画像+テキスト ・1対1のコミュニケーションがとれる

新聞やテレビなど、これまでのメディアは、発信側・受信側が明確で、情報の流れ方としては一方向でした。一方、ソーシャルメディアは、さまざまな人が受信も発信もし、情報が広がっていく特徴があります。今や誰もが手軽に楽しめるツールとなった SNS ですが、サービスによって特色があります。媒体名やその用途については図②をご覧ください。

SNSの種類と特徴、 総務省の調査報告

インターネットやソーシャルメディア等の利用について、総務省が2012年から「情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査」を行っています。令和3年度の調査結果から、全年代の「コミュニケーション系メディア」の平均利用時間について、平日、休日ともに「ソーシャルメディア利用」及び「メール利用」が長いことがわかりました (図③)。

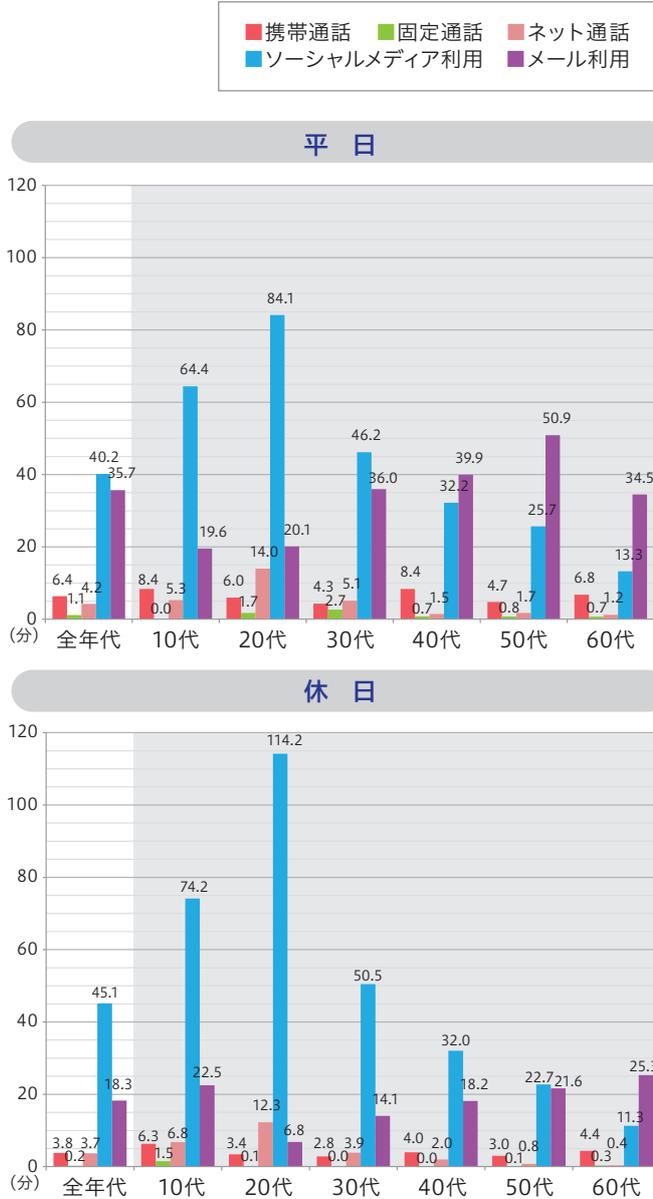
SNSは従来よりも、全世代において、私たちの生活の一部となっており、それらの影響を大きく受けた上での行動となっていることが分かります。そのため、SNSを上手に活用することは、その利用者にとっても発信者にとっても非常に有益であるといえるでしょう。

県内の社会福祉施設における SNSの利用

近年では、友達、同じ趣味を持つ人、ボランティア仲間など、単に人と人の繋がりがりだけでなく、会社や組織等の繋がりに用いる利用者も増えています。また、SNSの内容(文章、動画、画像など)の

※1 ソーシャルネットワーキングサービス (Social Networking Service) の略

図3 コミュニケーション系メディアの平均利用時間 (全年代・年代別)



出典：総務省「令和3年度情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査報告書」より ※(第2章 2-4 コミュニケーション系メディアの比較①)

質の高さを重視する利用者も増えているようです。

そこで本会では、県内の社会福祉施設にむけてSNSの基本的な理解を深め、その活用が進むことを目的とした「令和4年度 多様な人材を確保するためのオンラインセミナー」(2022年11月28日)を開催しました。セミナーでは、福祉施設におけるソーシャルメディアは、一般利用者との最初の接点となる重要な窓口であり、ホームページとSNSの特性を理解し使い分けを行

うことが必要であること、さらに現場目標のリアルな情報をSNSに載せることで施設への理解や、コミュニケーションを深めることができる重要なツールであることを取りあげました。

また、本誌「はあとふる・ふくしま8月号」の特集では、「福祉・介護の仕事について、正しい情報を伝える取組みを一つひとつ行っていくこと」が、重要であると取りあげましたが、それを伝える方法の一つとしてSNSを上手に活用すること

は、非常に有効な手段といえます。

SNSとホームページの相乗効果と利用上の注意点

一般的にホームページは、企業の概要やサービスなどについてまとめられたものとなり、ある程度固定化した情報を伝えるツールといえます。

一方、SNSは短い文章や写真で、今起きていることを端的に伝えるなどスピーディに拡散するのが得意なツールであり、ホームページにはな

い機能を持っているため、それぞれの特徴を理解し、組み合わせることで発信することができれば、相乗効果が期待できます。

例えば、SNSで発信した求人情報がSNS上で広まり、たくさんの方から知ってもらいつつ、ホームページに誘導し社会福祉施設の魅力や待遇についてさらに詳しく知らせることができれば、幅広い情報を上手く連動させて発信できるようになります。

ただし、SNSの利用上の注意点として次のことが挙げられます。個人としてSNSを利用する場合には、不用意な発言で所属する組織等にも影響が及ぶ場合もあるため、十分に注意する必要があります。また、組織として利用する場合には、「ブランドイメージを損なう発言をしない」「第三者にアカウントを乗っ取られないよう、アカウント情報(IDやパスワード等)の適切な管理を行う」「利用するサービスの規約を遵守する」などがあります。利用者も発信者もSNS利用上の注意点を守り、適切に利用して有用性を十分に活用することが重要です。特集の後半では、社会福祉施設におけるSNSの活用事例について紹介いたします。

※2 (参考) 総務省「国民のためのサイバーセキュリティサイト」

事例

SNSの活用が外部と施設をつなぎ、 職員の意識を変えた



社会福祉法人 恩賜財団済生会支部 福島県済生会
なでしこ川俣 (川俣町)

2011年、伊達郡川俣町に開所。済生会を母体に、地域密着型介護老人福祉施設「特別養護老人ホームはなづか」(29床)、「介護老人保健施設めぐみ」(29床)、通所リハビリテーションめぐみ」(40名)で構成される複合施設。第2回キラリふくしま介護賞(施設表彰)を受賞。

2017年 SNSの活用をスタート

なでしこ川俣は、特別養護老人ホーム(以下、特養)と介護老人保健施設(以下、老健)、通所リハビリテーション施設(以下、通所)で構成されている複合施設です。SNS等の活用は、法人による職員の人材育成や人材定着などを目指すための取組みの一環として2017年から始められました。

SNSを通じて、施設の持つ魅力、つまりは施設のブランド力が高まれば、「こんなに素晴らしい施設で自分たちは働いているんだ」という職員のモチベーションアップにもつながり、良い循環が生まれるのでは…と考えた上での取組みとのことでした。

河野哲也(とつや)さんは当時をこう振り返ります。「外部コンサルタントにも助言をもらいながら考えていた時、やはり『職員の自己肯定感を高めることを大切にしよう』ということになりました」。また、飯沼義雄(いぬまよしお)さんは、「議論をする中

で、地域に対して自分たちの考え方や介護の考え方、施設の魅力について発信することで知名度を上げていけば…地域にも、職員にも選んでもらえる施設になるのではと考えました」と話します。

新たに「SNS委員会」の 発足で状況を打破

情報発信のツールとして選んだのが、SNSとブログです。SNSは、気軽にタイムリーにつぶやけるTwitterと、映像によって視覚化できるInstagramを使い、またブログには詳しい情報を提示することとしました。もちろん投稿の際には、個人が特定される情報を使わないなど、法人の広報ルールに準ずる決まりも策定しました。

これまでは施設内の教育委員会とSNS委員会が中心となっており、3施設の行事や研修の様子などを発信し始めましたが、2年目あたりから、内容も偏りがちになり、段々と投稿数も少なくなっていました。

SNSを導入する際のワンポイントアドバイス

SNSもカメラも職員の中に慣れていて、得意な方がいると思うので、協力を仰ぐというのも一つです

より多くのSNSユーザーに閲覧してもらえるように#(ハッシュタグ)を付けて投稿しましょう

散歩は、いい写真が撮れる絶好のチャンス。職員と笑顔でお話されている様子を利用者さんの背中から撮らせてもらうといいですよ

アカウント、パスワードはSNS委員会でしっかり管理



◀なでしこ川俣の教育委員の皆さん。左から丹治尚樹(たにじ なおき)さん(通所リハビリテーションめぐみ)、佐藤大介(さとう だいすけ)さん(特別養護老人ホームはなづか)、高橋ちはる(たかはし ちはる)さん(老人保健施設めぐみ)、飯沼義雄(いぬま よしお)さん(特別養護老人ホームはなづか)、河野哲也(こうの とつや)さん(通所リハビリテーションめぐみ・老人保健施設めぐみ)



▲Instagram (上) のメインページ。写真と文面を担当者2人でチェックしてスマートフォンで投稿しています



いました。また、「なかなか自分たちの気づきを見出せない」という壁にぶつかりました。

そんな中、ターニングポイントになったのが、委員会の枠組みを外し、現場の声を拾い上げ、それを投稿に繋げる形に変えたことでした。それまでよりSNSに関わる人数を実質的に増やしたことで、施設種別を超えた職員同士のコミュニケーションも深まり、おのずと投稿も増えました。すると、3施設の特徴が段々と現れてきました。通所は毎日のレクリエーションや

ADL^{※3}を向上するためのリハビリの様子、老健は入所生活から在宅生活に戻るためのリハビリの様子、特養は野菜づくりなど利用者の日々の生活の様子など、それぞれの施設の魅力がはつきりしてきたのだそうです。広報ルールをしっかりと守りつつも、「誰に向けて投稿するのか」などの縛りをあえて決めなかったことも功を奏したといえます。

「客観的に自分たちの強みや魅力を深掘りし、それを誰に対して何を伝えたいかをよく考えていくようになりまし

た」と、丹治尚樹^{たにしなおき}さんは話します。

施設内部に向けた発信力も併せ持つSNS

6年目に入ったなでしこ川俣のSNSは、利用者、家族、地域、他施設と、縦横無尽に繋がりながら、情報を発信し続けています。

SNSは、外部だけでなく施設内部に向けた発信力も持っていると話するのは、老健に勤務する高橋^{たかはし}ちはるさんです。「特養と通所の介護を、SNSの投稿を通して見られるのがうれしいです。クオリ

ティの高い通所のレクリエーション法を、老健でも新しく行うこともあります。さらに、「見せよう」「発信しよう」という職員間のポジティブな空気、考える力、自己肯定感の高まりもSNSの効果と感じているとのこと。佐藤^{さとう}大介^{だいすけ}さんは、「ほかの施設の方に『こういう方法もあるんですね』と、リツイートしてもらった時は、やはりうれしくて充実感がありました」と自身の介護業務について投稿した際のエピソードを話してくれました。

SNSと施設のこれからについて

次へのステップとして、見せ方の弱い部分の改善を掲げています。なかでも、職員採用におけるSNSの効果の検証については、これから取組んでいきたいとのこと。しかし、入職時のオリエンテーションの参加者から「インスタで見えます」「なでしこ川俣は、リハビリに特化しているのでも自分もやってみたいです」など、SNSをきっかけとした採用者の声も聞かれるようになりました。このよう

なことからも情報発信、広報の大切さを実感しており、さらに進めて行きたいとのことでした。

これから、皆さんの施設でもSNSの運用を検討されてはいかがでしょうか？そして、地域の皆さんはSNSを通して、地域の施設を応援してみませんか？その際はぜひ、うれしいコメントと共に！



▶ SNSを見られないご家族のために投稿した中からトピックスを印刷し、玄関に貼り出しています。訪問時に見られるようフォロワーも忘れません

※3 移動・排泄・食事・入浴などの日常生活動作 (Activities of Daily Livingのこと)



社会福祉法人福島愛育園

連綿と続く児童福祉の歴史に 思いを寄せて



▶子どもたちの生活の様子を伝える児童指導員の遠藤嘉邦さんと、熱心に話を聞く北村会長



▶現園長の長谷川さんから歴代の園長について、愛育園の歴史に触れながら丁寧に説明いただきました

取材協力
社会福祉法人福島愛育園
福島市田沢字躑躅ヶ森 16
TEL 024-549-0596
<http://fukushimast.sakura.ne.jp/aiikuen/>



瓜生岩子の精神のもと 子どもとともに130年

慈愛を持って孤児救済や社会福祉事業に生涯を挺した瓜生岩子（現在の喜多方市出身・文政12年〜明治30年）は、本県が生んだ偉大な先覚者です。県社協ではその功績と精神を称え、「瓜生岩子賞」を設けています。その瓜生岩子が明治26年に創設した児童養護施設福島愛育園（以下…愛育園）を今回、福島県社会福祉協議会の北村清士会長が訪ねました。瓜生岩子に思いを馳せ、北村会長とともに、児童福祉の創成期から今を振り返ります。

愛育園の前身は「福島鳳鳴会」といい、すでに喜多方から、東京と孤児救済や福祉事業を広げていた瓜生岩子が福島市大町の到岸寺に拠点を置いたのが始まりです。その後、昭和21年に「福島愛育園」と改称し、昭和37年には福島市田沢に移転。現在、約7万平方メートルの敷地に管理棟・児童棟・給食棟など14棟の建物とキャンプ場があり、子どもたちがのびのびと暮らせる環境になっています。災害や



▲左から福島県社会福祉協議会北村会長、福島愛育園長谷川園長（愛育園敷地内にある瓜生岩子の胸像の前にて）

事故、家庭の事情など様々な理由で保護者のもとで暮らせない子どもたちを本園と同市内で運営する地域小規模児童養護施設2ヶ所で養育しています。

瓜生岩子が提唱した「人には皆、他人の不幸を平気で見ているには耐えられない心がある」という意味の言葉「仁慈隠傷」を理念とし、その精神を今に引き継いでいます。

児童福祉の現場の あたたかな思いに触れて

会長に就任以降、福祉現場への訪問を望んでいた北村会長をあたたく迎えてくださったのは、園長の長谷川文夫さんです。北村会長は「幼い頃、母が民生委員や赤十字奉



赤い羽根で ささえあい

社会福祉法人 福島県共同募金会

〒960-8141 福島市渡利字七社宮111(福島県総合社会福祉センター内)

TEL(024)522-0822 FAX(024)528-1234

メールアドレス akaihane@axel.ocn.ne.jp

ホームページ <https://akaihane-fukushima.or.jp/>

農福連携で障がいのある方の 「働く」を支える

赤い羽根共同募金は、「じぶんの町を良くするしくみ」として、地域の福祉のために役立てられています。福島県共同募金会にお寄せいただいた赤い羽根共同募金は、福島県内の福祉活動を支援するために役立てられており、地域福祉のための大きな原動力となっています。

今月号では、みなさまの温かいご寄付により行われた活動を1件ご紹介します。



特定非営利活動法人あたご 南会津町 あたご共同作業所

助成事業名：農作業用トラック整備事業

私たちは、農業と福祉の連携（農福連携）を推進する施設として、現在は農業・六次化商品の加工・販売を行っています。今回配分を受け整備した農作業用トラックは、私たちが推進している農福連携では欠かせない車両であり、6人乗りの利便性を生かし、施設外就労や農場の移動にとっても効果的な活躍をしています。また、荷台は以前使用していた軽トラックよりも多くの荷物を積めるため、作業効率の向上にも役立てられます。当法人では、令和元年8月にふくしま県GAP (FGAP) 認証を取得しており、今後も農業発展の糧にしていきたいと考えております。

このように、今回の赤い羽根共同募金の配分は私たちの作業所に本当に大きな意味があり、将来的な事業展開を考える上でも必要不可欠なものであったと思います。寄付者の皆さまへの感謝の気持ちを忘れず、有意義に活用させていただきます。ありがとうございました。



令和4年11月末、北村会長が長年貯めてきた500円玉貯金で県内8つの児童養護施設に約460人分の福島牛が寄贈されました

福島愛育園
ホームページ



▶寄贈された福島牛を美味しく食べる福島愛育園の子どもたち

仕団の活動をしており、それを手伝ったことが福祉に関心を持つきっかけになりました」と話し、長谷川さんが話す愛育園の歴史や養育に臨む思いに熱心に耳を傾けていました。児童福祉施設の多機能・高機能化が求められる昨今、「近年、愛育園が力を入れているのは、退所後の若者を支援するアフターケア事業です。就職などで一人暮らしをするようになった若者が困難な状況に直面した際には、職員が訪ねて支援を行い、自立の後押しをしています。子ども

もや若者たちに寄り添った取り組みができるのも、懸命に現場を預かってくれる職員に助けられているからです」と長谷川さんは話します。子どもたちが過ごす部屋など施設内を見学する中、夜間の様子について北村会長が尋ねると、「毎日3名の職員が宿直にあたっています。今、入所しているのは中高生が多いので、部活やアルバイトから帰ってきたあとに、いろいろと話を聞く夜の時間を大切にしています」と日常の様子を児童指導員の遠藤嘉邦さん

は教えてくれました。また、幼い子により家庭的な生活ができるよう里親のもとで生活していることや、本県では里親委託率が非常に高いことなどを伺い、子どもの最善の利益のために多くの福祉関係者が関わっていることに北村会長は「今後の児童福祉に関する取組みの参考にしていきたい」と話しました。福祉創成期から子どもに寄り添い、多くの人の手により受け継いできた愛育園。瓜生岩子の精神はこれからも未来に向かって育まれていきます。

施設・事業所
経営者の皆様

福利厚生センター(ソウェルクラブ)加入のご案内

福利厚生センター(通称:ソウェルクラブ)は、社会福祉法に基づき、「社会福祉事業従事者の福利厚生の増進を図る」ことを目的に厚生労働大臣から指定された社会福祉法人です。健康、生活、余暇、啓発など多様な福利厚生サービスを提供し、福祉の職場で働く方々の福利厚生をサポートしています。

また、平成28年4月から介護人材の確保推進のため、有料老人ホームや医療系の介護保険施設など社会福祉事業以外の介護保険事業も新たに加入対象となりました。魅力ある職場づくりや職員の確保・定着につなげるためにも、ぜひご加入ください。

▼ 主なサービス例

- 慶事お祝** 出産祝品贈呈、子ども入学祝品贈呈等
- 万 一 の 際** 死亡弔慰金、災害見舞金、入院手術見舞金等
- 健康管理** 健診費用助成、24時間電話健康相談等
- 会員交流事業** 県内会員のため旅行等を企画し、費用を一部助成します。

会員交流事業 実施例

- ◆アクアマリンふくしま入館チケット幹旋…… 一人 500円
- ◆ディズニーリゾートに泊まる1泊2日…… 一人 25,000円
- ◆ディナーパーティ…… 一人 3,000円

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため令和2～4年度は旅行企画を中止しております。

クラブオフ

(インターネットサイトによる施設利用割引提携)

全国の宿泊施設、遊園地、水族館、映画館などのレジャー施設、レストランなどの飲食施設など幅広い分野が優待料金で利用できます。対象施設は全部で75,000カ所以上あります。

- Q** 加入できる施設や職員は?
- A** 社会福祉事業などに携わる施設・事業所の職員。

Q 費用はどのくらいかかりますか?

- A** 掛金は会員種別によって2種類あります。
第1種会員(主に正規職員)……職員一人当たり毎年度1万円。(一月833円)
第2種会員(主に非常勤職員)……職員一人当たり毎年度5千円。(一月417円)

※第2種会員は一部利用できないサービスがあります。詳しくはお問合せください。

お問い合わせ先

福島県地方事務局：県社協 総務企画課
TEL024-523-1251 FAX024-523-4477

または、福利厚生センターホームページ
<https://www.sowel.or.jp/>

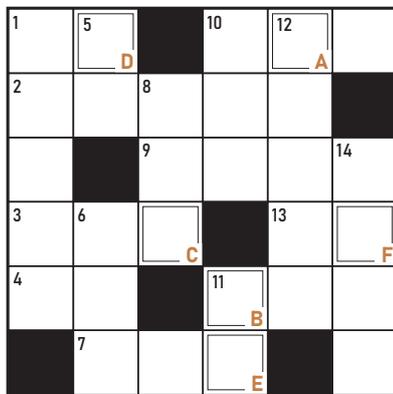
クロスワードにチャレンジ!

→ ヨコのカギ

- シルク
- 浦島太郎がうっかり開けたもの
- 主に椅子とセットで使います
- 〇〇号。再来〇〇。〇〇未調整
- 狩猟で得た野生鳥獣の食肉
- 「翻車魚」の読み方
- 自分の作品などを自分で演じること
- 徳川家康の隠居地
- バレーボールでアタッカーにボールを上げること

↓ タテのカギ

- 北海道に生息するアカギツネの亜種
- 五色〇〇。印旛〇〇。尾瀬〇〇
- さとし戒める言葉
- ⇄奥
- 〇〇〇沈下。〇〇〇が緩い。〇〇〇改良
- 〇〇広がり。〇〇吉
- 環境に配慮した水筒や容器
- 〇〇〇〇テレビ。〇〇〇〇非球面レンズ



全部できたら二重ワクの6文字をABC順に読んでいくと、それが答えです。

正解者から
抽選で3名に
プレゼント
が当たる



今月のプレゼント

社会福祉法人育成会 いわき学園
(いわき市 生活介護・就労継続支援B型)

手作りクッキーの詰め合わせセット

当選者の発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。

応募方法 ハガキまたはEメールにパズルの答えと①住所、氏名(ふりがな)、年齢、電話番号、業種 ②本誌に対するご意見、ご感想、ご要望を全てご記入の上、ご応募ください。

締 切 令和5年3月14日(火)

宛 先 〒960-8141 福島市渡利字七社宮111
社会福祉法人 福島県社会福祉協議会
「はあとふる・ふくしまパズル係」

※ご記入の個人情報は適切に管理し、目的以外に使用しません。
※本誌に対するご意見、ご感想、ご要望の一部は、「読者のおたより」に掲載させていただく場合もございます。

メールでのご応募はこちら!



1月号の正解
地域支援(チイキシエン)

多数のご応募
ありがとうございました

編集後記

特集の取材で、老健めがみの高橋さんが「ワタシ、自分の法人のインスタのファンなんです!」と笑顔で話されていました。インスタの投稿からたくさんヒントをもらいながら仕事を頑張っているとのこと。自分の法人のインスタの仕事だなんて、ステキだなあと素直に思いました!
(人材研修課 渡部 智子)

12月号の読者のみなさんへ

初めてはあとふるを拝読させて頂きました。12月より民生児童委員になり、緊張した毎日を過ごしていますが、自分なりに焦らず活動しようと思っています。
(66歳 無職)

子どもから高齢者、障がい者分野まで幅広く情報を知ることが出来るので、楽しみにしています。
(46歳 福祉関係)

社会福祉協議会と言っても、実際何をしているのか、はっきり分からない人が多い中、この広報誌により活動内容がみえてくるといのは非常によいと思います。
(66歳 自営業)